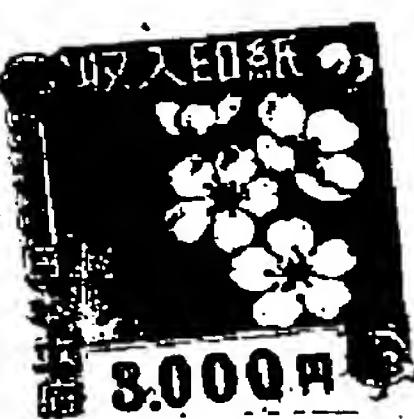


BEST AVAILABLE COPY



(3,000円)

実用新案登録願

昭和51年5月25日

特許庁長官 片山石郎殿

1. 考案の名称 カイテン印

2. 考案者

住所 出願人と同じ

氏名

3. 実用新案登録出願人

住所 ニシキタカショウ
名古屋市西区北鷹匠町2丁目ノ番地
氏名 フナハシタカシ
舟橋高次

4. 代理人

住所 名古屋市瑞穂区弥富町月見ヶ丘2番地
氏名 関田ビル503号 電話 (052) 831-0901
(7547)弁理士 平佐見思男

5. 添付書類の目録

- (1) 明細書
- (2) 図面
- (3) 願書副本
- (4) 委任状
- (5) 出願審査請求書

1 通
1 通
1 通
1 通
1 通

特許
5.5.26
願

51 066696 方式審査

52-158611



明細書

1. 考案の名称

回転印

2 実用新案登録請求の範囲

支持枠(1)と、支持枠上下に差渡された一対の支持棒(5)、(6)と、上部支持棒(5)と下部支持棒(6)との間に摺動回転可能に懸架され表面に印字体を形成したエンドレスの印帯(4)とからなる回転印本体Aと、該回転印本体A下部に着脱自在に組合わされ、回転印本体の印帯の印字を外出させるべき窓孔(4a)を設け、かつ下面に印字体を装着した着脱印部Bとからなり、しかして下部支持棒(6)の印帯が当接して摺動する下面を他の部分より隆起せしめて、かつ印帯当接部(6)a両端の両側面または一側面から印帯(4)が印帯当接部(6)aから滑落しないように保止片(6)cを突出させたことを特徴とする回転印。

3 考案の詳細な説明

本考案は、回転印本体に着脱印部を取り替え自在に組合わせた回転印に関するものである。

(1)

52-1586/11

この種の印判は、回転印本体の印字の印字面と着脱印部の印字の印字面とが同一面上に位置するようにして両者の印影が漫漫なく均一に捺印される必要がある。そのため、従来においては例えば第1図に示すように回転印本体A'に収納されている印帶(111)上の印字体(112)の厚みを着脱印部B'に収納せられている印字体(127)の厚みより厚いものにして印字体(112)の印字面(128)と印字体(127)の印字面(126)とを同一面上に位置せしめる方法が多くとられていた。しかし、上記方法にあっては厚みのある印字を有する印帶を特別に製造しなければならず、製造された印帶は印字が特別に厚いから汎用性がなく、他種の印判に流用されにくくこと、印字に厚みを持たせると印字にクラックが生じたり、欠落したりし易くなること等の欠点を有する。

本考案は叙上の欠点を改良し、回転印本体の印影と、着脱印部の印影とを漫漫なく均一にし、しかも回転印本体の印带上の印字を厚くする必要のないような新規な構成を有する回転印を提供する

ことを目的とするものである。

本考案を第2図以下に示す実施例により説明する。回転印本体Aにおいて(1)はJ状の支持枠であり、上辺には握り(2)が座金(3)を介してボルト(4)によって取付けられる。支持枠(1)の側壁(1')間にには、一对の支持棒(5)、(6)が差渡される。上方の支持棒(5)には側面に回転体(7)が一体に固着している案内輪(8)が複数個回転自在に嵌合せられる。また、下方の支持棒(6)はその下面の印蒂が当接して摺動する部分の全体が第3図・第4図に示すよう^{上部}^{下部}折り曲げ部(9)、(10)よりも隆起していて印蒂当接部(6)aとなっている。そして、この印蒂当接部(6)aの両端両側面から一对の係止片(6)b、(6)b'、(6)c、(6)c'が突出せしめられている。更に、支持棒(6)の両端には折り曲げ部(9)、(10)が延設折り曲げられ、支持枠(1)の両側壁(1')、(1')の下端に嵌合せられる。支持棒(6)はかくして支持棒(6)本体と折り曲げ部(9)、(10)とで支持枠(1)の両側壁(1')、(1')の下端を挟持することにより支持枠(1)に取付けられる。

図は表面に印字跡を形成したエンドレスの印蒂

であり、回転体(7)と支持棒(6)の印帯当接部(6a)との間に摺動回転可能に懸架される。支持棒(1)の内側壁(1)、(1')の下部には後記する着脱印字部Bを取付けるため上下一対の嵌入孔(43)、(44)および(45)、(46)が夫々設けられ、一対の嵌入孔(47)、(48)および(49)、(50)を連絡する連絡溝(46)、(51)が設けられる。なお、前記の嵌入孔は(43)、(44)または(45)、(46)のいずれか片方のみであってもよい。即ちエンドレス印帯(4)をカバーするカバー板で、案内輪(8)が露出するための露出窓(52)が設けられる。なお、印帯(4)は無数の微細な連続気孔を有する材料でつくってもよい。

次に、第3図(4)、(5)に示す着脱印字部Bにおいて(4)は底なしの箱体であり、中央部には印字露出用の窓孔(53)があり、窓孔(53)の長手方向両端からは手掛部(60)を上縁に設けたプラスチックス製のカバー(60)を被覆した棒体(54)が台部(55)、(56)上に夫々立設せられ、棒体(54)の内側面には中央部に凹陥部(22)を形成し凹陥部(22)両側に翼(23)、(24)を延設し、かつこの翼(23)、(24)の表面には支持棒(1)に設けられた嵌入孔(43)、(44)および(45)、(46)に嵌入する凸部(25)が

夫々形成せられている板バネ4が図示されている。なお、カバー(60)は用いられるインキの色と同一に着色してこれをもってインキの色の表示とすると使用に極めて便利である。

更に、この板バネ4の下端には、位置決め用の腕41が一体的に形成されている。

以上の状態を図示すると、第3回の如くであるが、特に板バネ4の部分を第4回(第3回のA-A拡大断面図)を用いて更に詳しく説明する。

図示されている板バネ4は、一枚の弾性のある材料よりできている。この材料は、金属または合成樹脂のうちから適度の弾性と強度とをもつものを選んで用いる。具体的にいえば、金属ではリン青銅、ステンレス等であり、合成樹脂ではポリプロピレン、ポリアセタール等である。

前述したように、板バネ4は凹陥部(22)とこの凹陥部(22)の左右の端部に形成された翼4。4とよりなっているものであるが、更にこの凹陥部(22)の下端には、逆T字形の位置決め用の腕41が

一体的に形成されている。

そして、この位置決め用の腕⁶⁰の左右の両端部^{61, 62}は、その上方に位置する翼⁴⁰、⁴¹の左右の両端上りも外方にまでのびており、枠体⁴⁰の両側壁^{42, 43}の内壁面に接触した状態となっている。

従って、二つの翼⁴⁰、⁴¹は枠体⁴⁰の背部⁴⁴との間には凹陥部⁽²²⁾によって一定の間隙^{(52), (52)}が形成され、両側壁^{42, 43}との間には位置決め用の腕⁶⁰によって一定の間隙^{(53), (53)}が形成されることになる。

なお、詳述はしないが位置決め用の腕⁶⁰が逆T字形であることにより、当然上記二つの翼⁴⁰、⁴¹と位置決め用の腕⁶⁰との間にも間隙^{(54), (54)}が形成される。

そして、この板バネ⁴⁰はこの状態で凹陥部⁽²²⁾の部分を枠体⁴⁰の背部⁴⁴に接着または接着等により固定されている。だから、翼⁴⁰、⁴¹は凹陥部⁽²²⁾を除く他からは全く自由な状態にあり、その弾性をさまたげるものは何もない。

次に、この板バネ⁴⁰を製造する場合について説

明する。まず、一枚の平坦な板から凹陥部 (22) にあたる部分と、翼脚、脚と位置決め用の腕脚とを同時に打ち抜く。

つづいて、凹陥部 (22) にあたる部分をプレスにより凹陥状に形成する。すると、翼脚、脚は凹陥部 (22) から立上った状態となり、その立上った分だけ内側に引込まれ、外寸法はプレスされなかつた位置決め用の腕脚よりも短いものとなる。

このようにして形成された板バネ脚を枠体脚に固着する時には、位置決め用の腕脚を枠体脚の両側壁の間にそわせて凹陥部脚を枠体脚の背部の間に密着させて位置させた後、凹陥部脚の部分を背部の間に接着または接着しさえすればそれでよい。そうすれば、板バネ脚は上述した状態で枠体脚に固着される。

位置決め用の腕脚のはたらきにより、組立者は組立て上の煩しさを回避でき、極めて高能率に作業ができることになる。

次に、箱体脚を説明する。この箱体脚には印字体脚を有する印字体脚が収納される。印字体脚はイ

ンキを吸収するための無数の微細な気孔を有したものとし、その上にインキ吸収体ぬを添接してもよい。

以上のような構成からなる本回転印にて捺印する場合について説明する。

まず、回転印本体Aの案内輪(8)を手で回して印帯山を回転移動させ、所望の印字ぬを下部捺印位置に整列させる。この際、印帯山は下部支持棒(6) ^{隆起している} の印帯当接部(6) a の下面を摺動するが、第6図に示すように印帯当接部(6) a両端両側面から突出せられる係止片(6) b, (6) b', (6) c, (6) c'によって印帯ぬが印帯当接部(6) aから折り曲げ部(9), (10)の方へ滑落することが防止せられる。次に、所望の着脱印部Bを選択して回転印本体Aに取付ける。こうすることにより、上記印帯山の印字ぬが着脱印部Bの窓孔ぬから露出するようになる。両者を取付ける際、着脱印部Bの板バネぬに形成せられている凹陥部ぬに回転印本体Aの支持棒(1)両側壁(1) (1)の下端外壁面に外出している支持棒(6)の折り曲げ部(9)。ぬを嵌込んで着脱印部Bをスライドさ

せ、支持棒(1)の両側壁(1)Y、(1)Yに設けられた下方の

~~嵌入孔~~^{2字捺印}、~~側面~~^{2字捺印}に着脱印部Bの板バネの裏面、~~側面~~^{2字捺印}に~~嵌入~~^{2字捺印}形成せられている凸部~~の~~。時をまず嵌入させる。

次に、着脱印部Bに更に力を加えて、下方の~~側面~~^{2字捺印}、~~側面~~^{2字捺印}に~~嵌入~~^{2字捺印}していった凸部~~の~~、~~の~~を上方の~~側面~~^{2字捺印}、~~側面~~^{2字捺印}に~~嵌入~~^{2字捺印}。時に摺動させて嵌入させる。

この状態を図示すると、第~~三~~⁵圖~~第6圖~~のようである。~~2字捺印~~
~~2字捺印~~
そこに明示されているように、回転印本体Aの印字面と着脱印部Bの印字面とは同一面上にある。

しかし、望ましくは着脱印部Bの印字~~の~~の印字面よりも回転印本体Aの印~~の~~の印字~~の~~の印字面の方が若干（略0.3～数度）突出するように下部支持棒(6)の印~~の~~当接部(6)aの突出高を調節しておくことが望ましい。

上記のように印~~の~~上~~の~~印字~~の~~を印字体~~の~~の印字~~の~~より若干突出させておくと印字~~の~~による印影の濃さがより均一なものとなる。更に、例えば何らかの原因で印字~~の~~の印字面が印字~~の~~の印字面よりも若干陥入してしまった場合でも、印字~~の~~による印影が極端に薄くなったり、又は殆ど印字~~の~~に

よる捺印が不可能となる事態を未然に防止する効果がある。

使用者は、第3図に示す状態にある回転印の握り(2)を手にとって捺印を行えば、着脱印部Bの印字凹と回転印本体Aの印字凹とが同時に捺印される。回転印本体Aの印字凹を変更したい時は、着脱印部Bを手で引下げて翼4。4に形成せられている凸部24。24を支持枠(1)両側壁に設けられた嵌入孔^{4字枠}から下方の凹部43。43に摺動部^{6字枠}入させる。かくして、着脱印部Bの印字凹の位置よりも印帯(1)の印字凹の位置を窓孔42の奥に引っ込んだ状態として窓孔42の周縁に回転移動する印帯(1)の印字凹が接触しないようにしてから案内輪(8)を手で回して所要の印字凹を捺印位置に整列させる。再び着脱印部Bを押し上げて上方の凹部43。43に凸部24。24を嵌入して着脱印部Bを固定し同様に捺印を行う。

翼4。4は、弾力性のある材料よりできており、しかもこの弾力性は枠体内に固定されている凹陥部4以外のものからは全く影響を受けないもの

であるから、着脱印部Bの摺動は極めて容易である。

また、上下一对の~~凹部~~^{嵌入孔}(4)および~~凸~~²⁹²³²⁴(5)を連続²⁹²³²⁵する連絡溝~~溝~~²⁹²³²⁶。~~溝~~²⁹²³²⁷は着脱印部Bの上下動を円滑にする。また、支持棒(6)の折り曲げ部(9)。~~部~~²⁹²³²⁸が板バネ~~板~~²⁹²³²⁹に形成せられている凹陥部~~部~~²⁹²³³⁰に嵌入しつつスライドすることにより着脱印部Bの上下動が垂直に案内される。

本考案は、叙上の実施例により限定されるものではない。例えば、着脱印部Bを回転印本体Aに取付けるには、本実施例による機構の他、実願昭49-34557、実願昭49-34558、実願昭49-34559に記載の機構を適用してもよい。また、下部支持棒(6)の印蒂当接部(6)aの両端側面から突出せられる係止片(6)b、(6)cは、印蒂当接部(6)aの一方の側面からのみ突出せられてよい。

なお、本回転印は着脱印部Bを取付けたまま設置台C上に設置せられる。第9図および第10図に²⁹²³³¹おいて~~印~~²⁹²³³²は、チーバー状の周壁~~壁~~²⁹²³³³が周設され上

部が開口した箱体であり、箱体の内部にはポリビニルホルマール樹脂等からなる硬質の多孔質体¹⁰にインキを含浸せしめて収納する。該多孔質体¹⁰の上面は、箱体の周壁¹²の内側から差出された複数個の係止爪¹³により押圧係止せられる。かかる設置台¹⁰の上に本回転印の印字面を下にして第10図のように設置すれば、印字面は多孔質体¹⁰と¹¹接觸してインキの揮散が防止され、印字面が乾くことがない。また、机やその他の面にインキが附着して汚染されることも防止できる。更に、設置台¹⁰にキャップ¹⁴を被着して本回転印を被覆し、本回転印および設置台¹⁰内部にゴミ等が附着することを防止してもよい。

本考案は、支持枠と支持枠上下に差渡された一对の支持棒と、上部支持棒と下部支持棒との間に滑動可能に懸架され、表面に印字を形成したエンドレスの印帶とからなる回転印本体において、下部支持棒の下面に印帶当接部を隆起せしめて形成することにより、印帶上の印字¹²の印字面と着脱印部¹³の印字¹²の印字面とを同一面としたもので

ある。従って、印帶上の印字時の厚みを特別に厚くするなどの方法をとる必要がなく、使用される印帶^はは即存のものをそのまま流用することができます^{また}、經濟的である。^{また}印帶上の印字時にクラックが^{字跡入}生じたり、欠落したりする従来の欠点も防止される。更に、印帶当接部に係止片を形成し、印帶（^{字跡正}特に両端に位置する二つの印帶）がこの印帶当接部上を摺動する際、滑落するのを防ぐから、使用者は安心して印帶を回動させて希望する印字を選択することができて能率的に捺印事務を行うことができる。

4 図面の簡単な説明

第1図は従来の印判の要部の一部切欠正面図、第2図以降は本考案に係る一実施例を示すものであり、第2図⁶は回転印本体の斜視図、⁷は着脱印部の一部切欠斜視図、⁸は⁷におけるA-A拡大断面図、第9図は回転印本体と着脱印部とを組合せた状態の一部切欠正面図、第10図は本願の字跡正印判の要部の一部切欠拡大正面図、第11図は下部字跡正支持棒の正面図、第12図は印帶を懸架した状態を字跡正

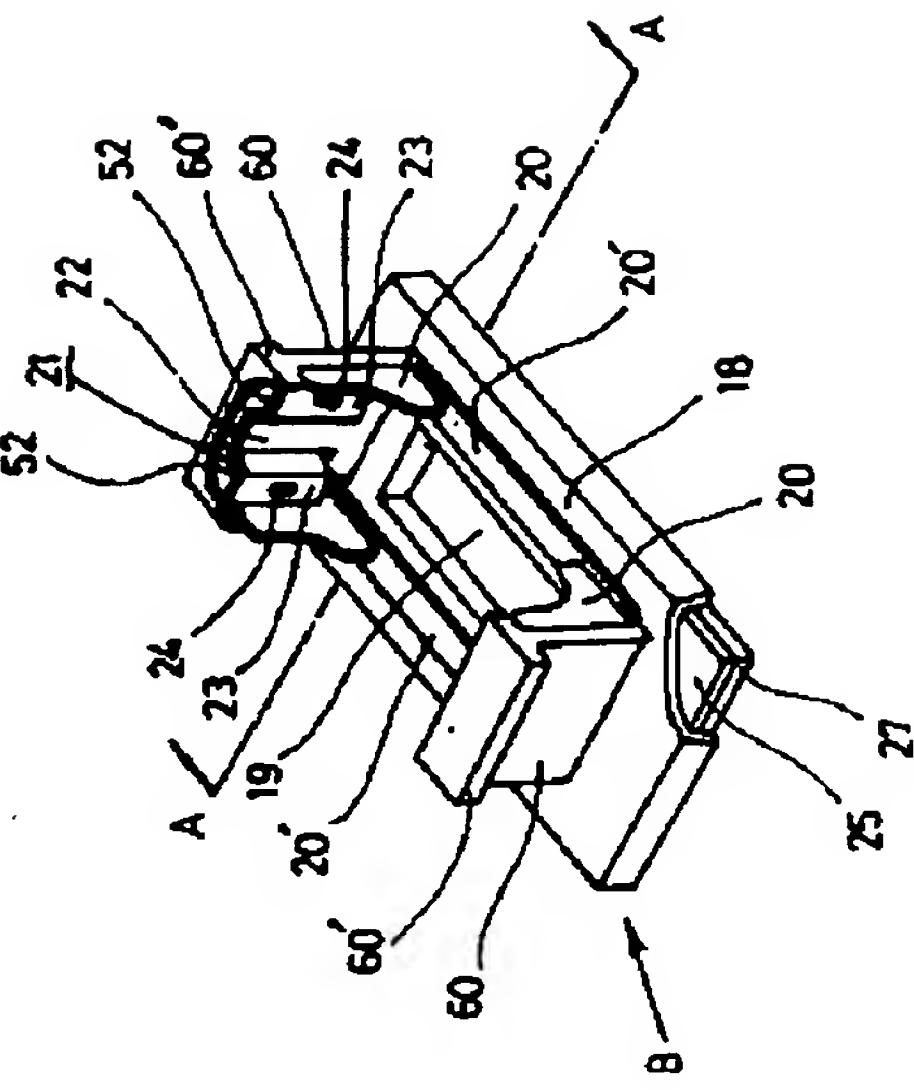
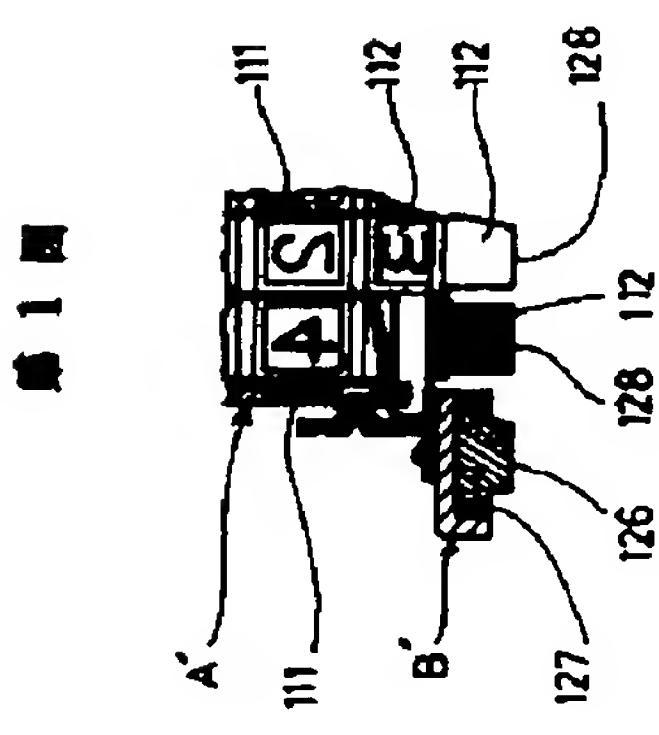
説明するための下部支持棒部の側面図、第9図は⁹設置台の平面図、第10図は回転印を設置しキャップ¹⁰をかぶせた状態での一部切欠正面図である。

図中、A …… 回転印本体、(1) …… 支持軸、(5)、
(6) …… 支持棒、(6) a …… 印帶当接部、(6) b、(6) c
… … 係止片、(7) …… 印帶、(8) …… 印字、B …… 脱印部、(9) …… 惯孔、(10) …… 印字

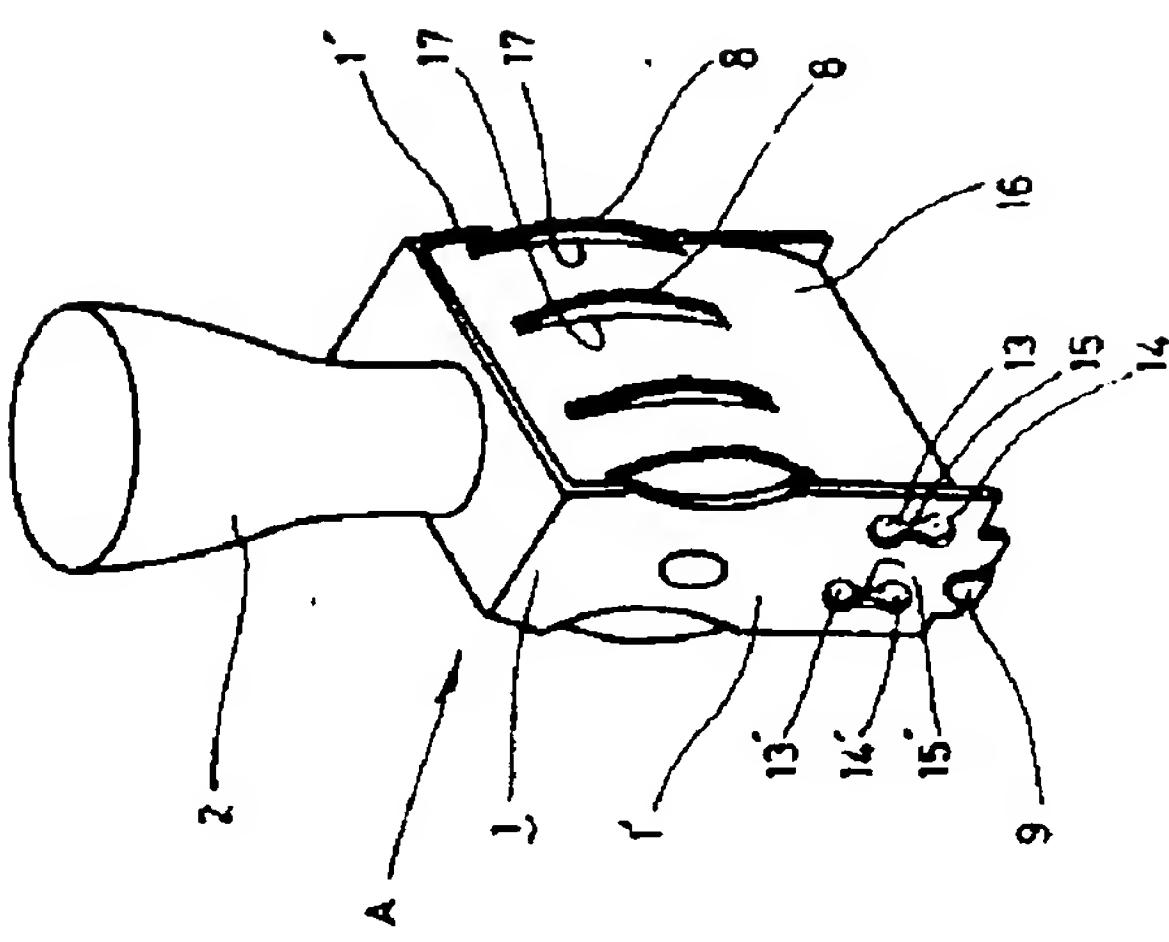
実用新案登録出願人 舟橋高次

代理人 宇佐見忠男

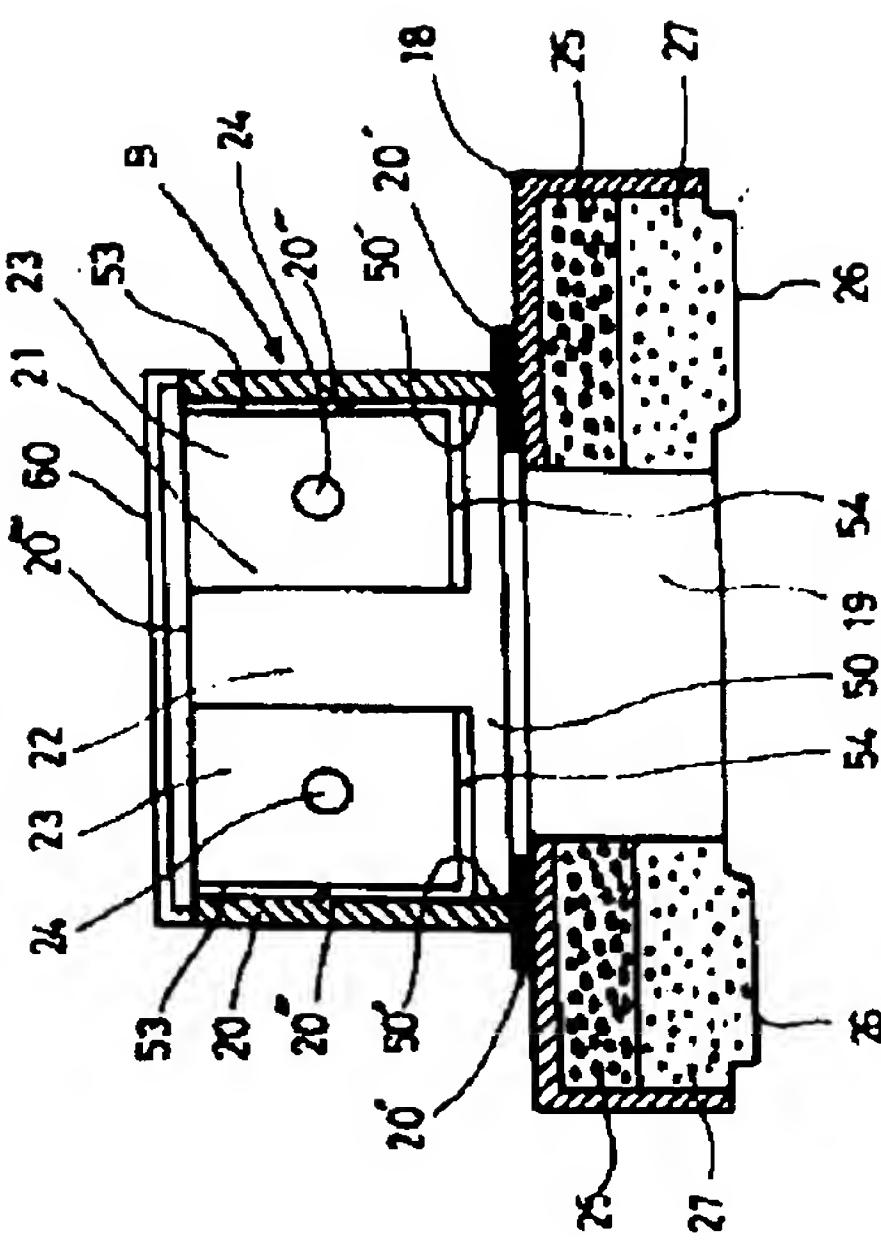
第1図



第2図

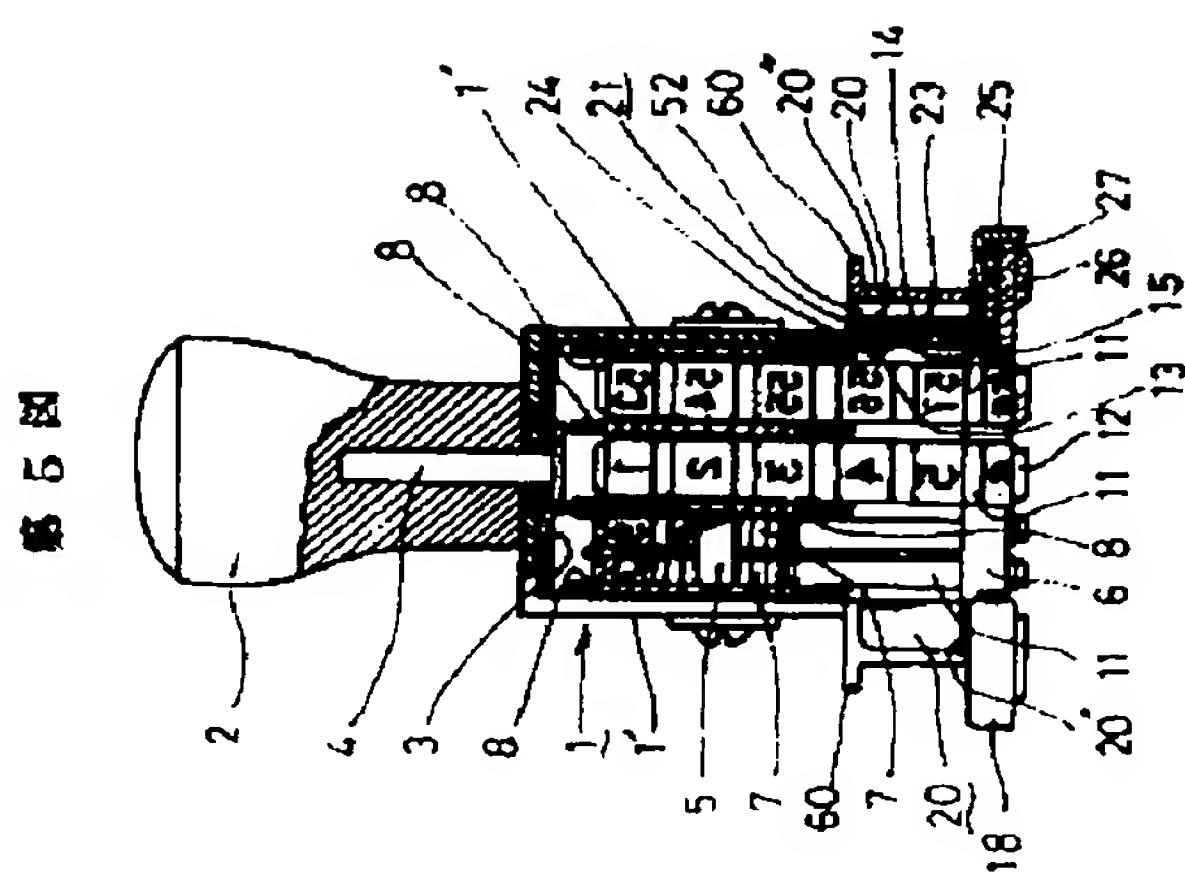


第4図

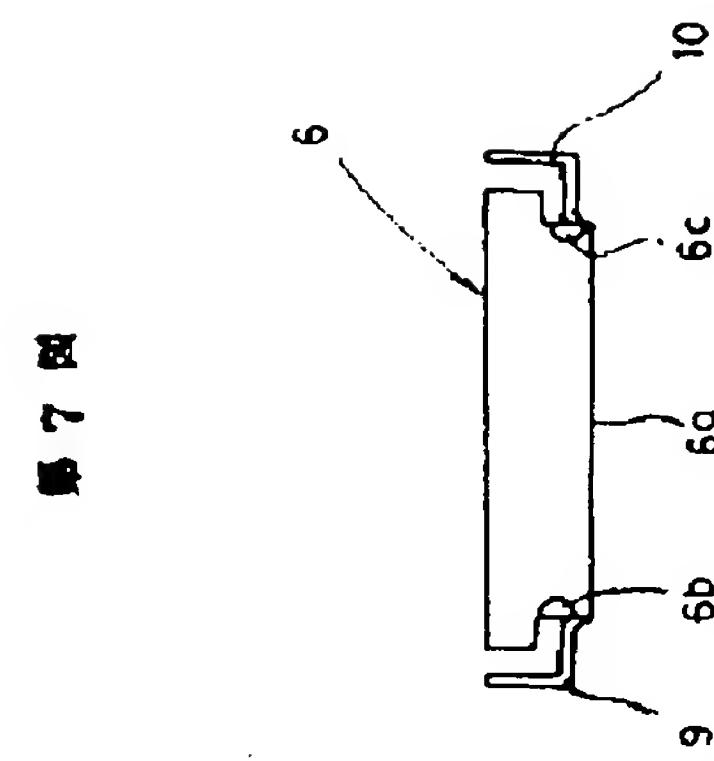


代理人 宇佐見忠男
発明者 宇佐見忠男

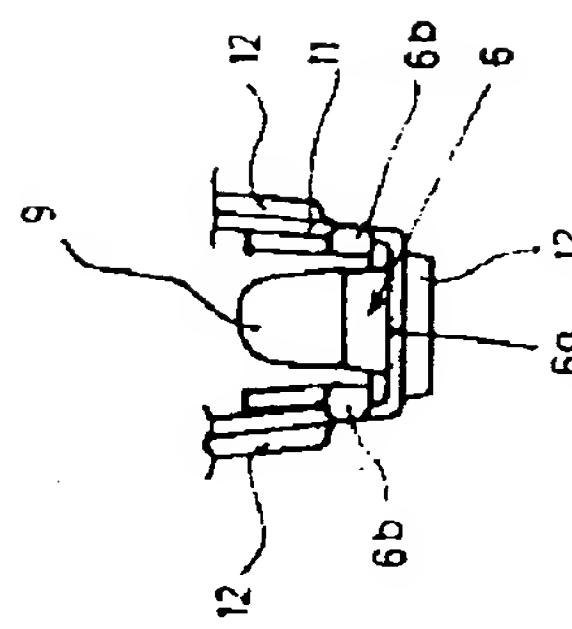
158611 1/2



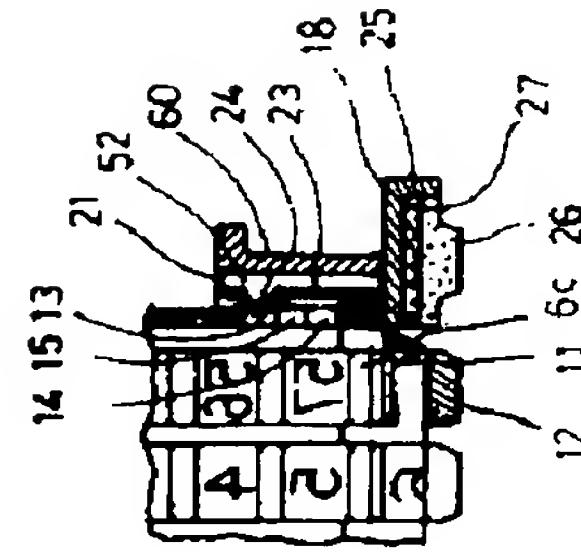
五
10
五



五
七
七



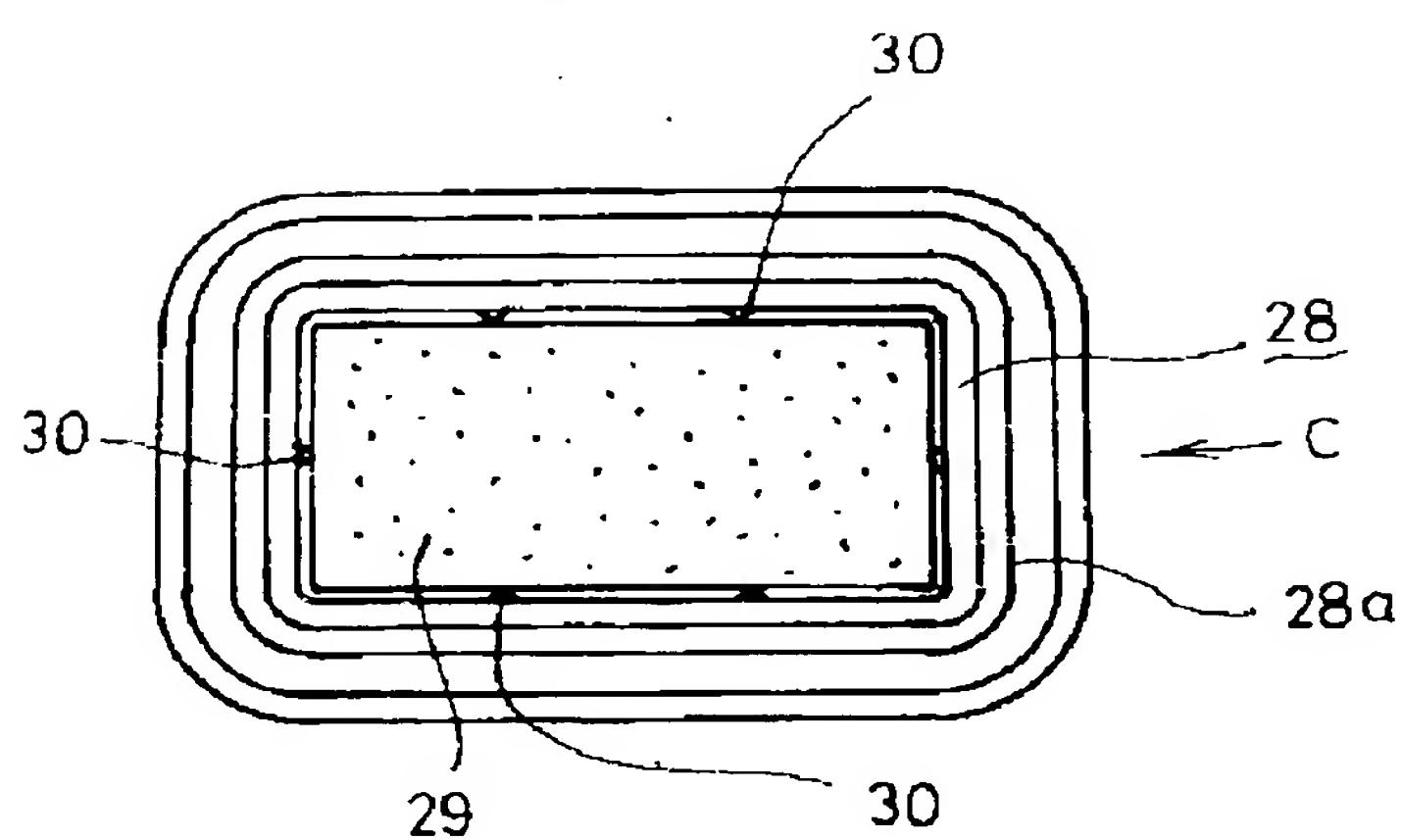
33



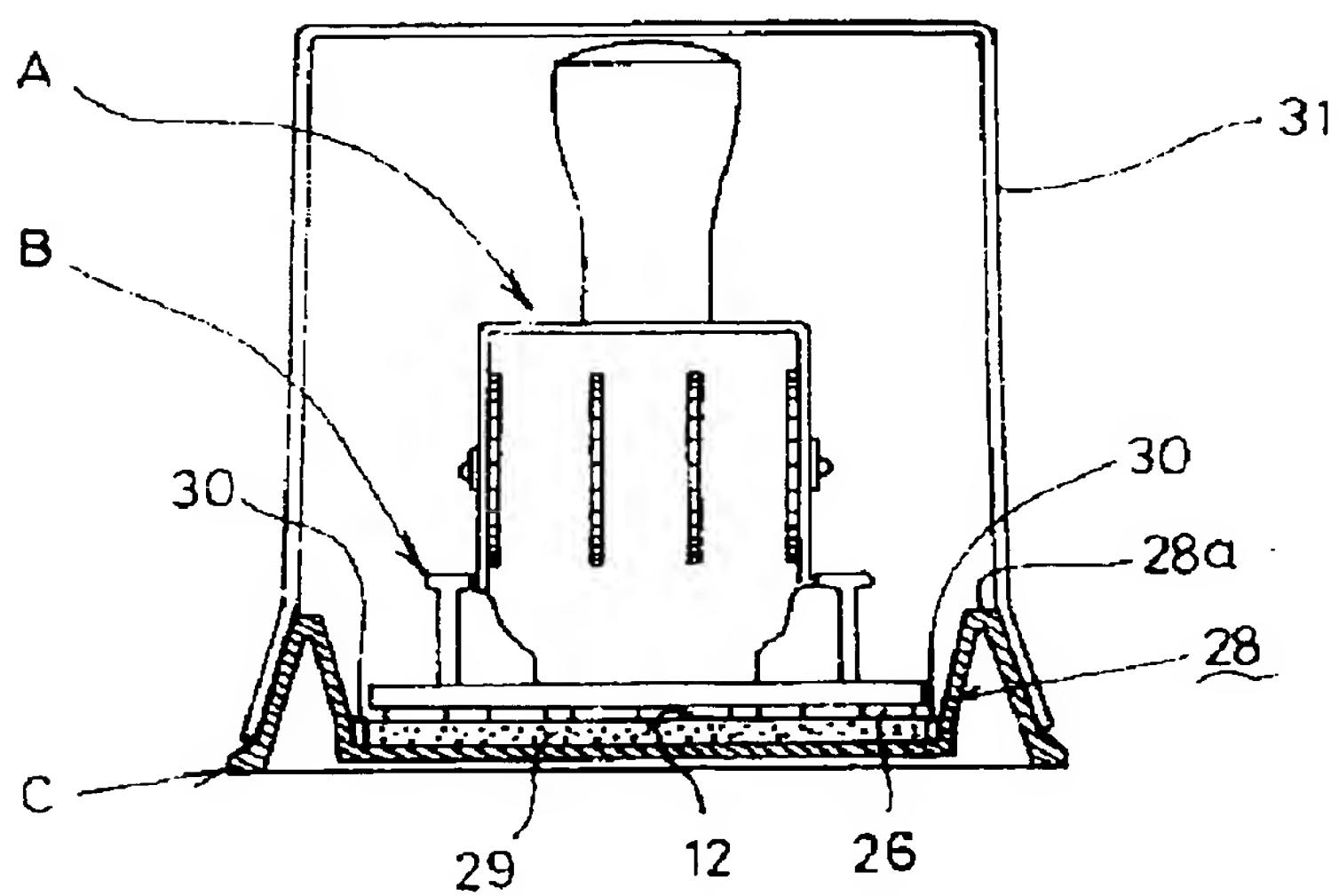
88

代理人 佐見忠男

第9図



第10図



代理人 宇佐見忠男

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER: _____**

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.